

* 塚教会CS新聞「いずみのひろば」は家族の人と一緒に読んで下さい。

いずみのひろば

2020年1月号
日本基督教団塚教会
No.494 教会学校



『天使の御告げ』

マタイによる福音書 1・18~25

神さまは昔、人間の救いのために、神さまのこどもがこの世に生まれてくることを約束してくださいました。

そのこどもというのがイエスさまです。これは、そのイエスさまが産まれた日、最初のクリスマスの少し前のお話です。

昔々、2020年前にナザレという町にヨセフという大工さんがいました。ヨセフさんはマリアさんという女のひとと結婚する約束をしていました。この二人は結婚する日をととても楽しみにしていました。そんな幸せの中にいたヨセフさんにととてもショックな出来事が起こりました。自分の知らない間に、婚約者のマリアさんのお腹に赤ちゃんがいたのでした。ヨセフさんは何が何だか分からなくなり、「マリアは本当は他の男の人が好きで、僕とは結婚しなくなかったんだ。」と、とても悲しくなりました。ヨセフさんは悩んだ結果、そっとその結婚の約束をなかったことにしてしまおうと考えました。その夜にヨセフさんが寝ていると、夢の中に天使がやってきて、神さまの言葉を伝えました。「ヨセフよ、何も悩まずにマリアを妻として迎えなさい。マリアのお腹の中の子は神さまの力、聖霊によって生まれてくる子だ。マリアは男の子を産む。その子にイエスという名前をつけなさい。その子は世界中の人を救うだろう。」

ヨセフさんはびっくりして目が覚めると天使が言ったとおりにマリアさんを自分の奥さんにすることを決めました。天使のお告げに従ったヨセフさんですが、この後も大変な苦労がいくつも待っていました。お腹の大きくなったマリアさんを連れてナザレから遠く離れたベツレヘムへ行くことになりました。ベツレヘムについても、泊まる宿屋がなく、牛や馬を飼っている家畜小屋に泊まり、そこでイエスさまがお生まれになったのです。その後すぐに今度はエジプトまで行くことになります。しかし神さまはヨセフさんたちを見放したりせず、必要な時に救いの手をさしのべて、困難から守ってくれました。

どんな苦しみの中でも神さまを信じたヨセフさんのように、私たちも神さまのお約束を信じて、感謝と喜びを持ってイエスさまをお迎えしましょう。

(おはなし 辻野 智也先生)